

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 大山 敏 会員数 約 1,000 人)

T E L 03-3333-7771

1 前 文

現行学習指導要領の下ですべての受験者に対して実施される共通テストは今年度が最後である。出題内容は、学習指導要領に掲げられた教科・科目のねらいや内容におおむね則しており、いわゆる難問・奇問とされる問題はみられず、高校生が学習した知識や技能、涵養した思考力や判断力に基づき、考えて解いていく工夫が施された標準的な問題である。問題作成に当たっては、大問ごとにリード文などをおして大間で問う分野や領域を示し、基礎的・基本的な知識の確認と、習得した知識や技能を用いて思考力や判断力を働かせてその分野や領域への理解を完成させる工夫が求められるだけでなく、一定の平均点を確保し、試験実施時間内に解き終わることや高等学校での学習への影響を考慮するとともに、これから大学に進もうとする有為な若者へのメッセージを織り込むことなど、多くの努力を要したものと推察する。ここでは後期中等教育の現場にあって公民科を与える立場から意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

高等学校公民科「倫理」及び「政治・経済」での学習を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の確認から、習得した知識・技能を用いて思考力・判断力を働かせて解く問題までが、「倫理」から大問4、小問16、「政治・経済」から大問3、小問16、出題分野の偏りなく出題されている。配点は「倫理」と「政治・経済」で50点ずつであり、二つの科目内での出題分野の偏りはなく、考えて解く問いの配点を重くするなど工夫されている。大問ごとのリード文などでは高校生の日頃の学び、もしくは学びの延長にある状況を踏まえた設定を工夫しており、各小問にはさらに資料やメモあるいは図表などが示され、単に基礎的・基本的な知識や技能を問うことに終わらない工夫がある。その一方で、高等学校での学びが大学での研究や真理の探究にどのように発展していくのかを見通す知性あふれるリード文がないことや出題者の意図とは別に単なる小問集合に見えてしまう場合があること、あるいは約46ページにわたる問題を丁寧に読み解いていった場合に試験時間内に解き終わるのか、平均点を下げるために選択肢を安易に増やすことなど、検討すべきところではないだろうか。

第1問 「倫理」から、会話文を読み、資料などを参照しながら源流思想を考える問題。

問1 ギリシア思想からソフィストとソクラテスについて基礎的・基本的な知識を確認する問い。

問2 源流思想に関する基礎的・基本的な知識を確認する問い。老子の道、ユダヤ教の契約、イスラームの六信五行、仏教の八正道についての理解が問われた。問われた内容はきわめて平易ながら、組合せとして正しいものを選ぶ形式にして正答率を下げようとしている。

問3 『荘子』から「無用の用」と「逍遥遊」を答える基礎的・基本的な知識の問い。

問4 新約聖書とスッタニパータを読んで考える資料読解問題。空欄 **a** ではキリスト教における神の国と仏教における涅槃に関する基礎的・基本的な知識が問われ、空欄 **b** では資料の読解力が問われた。

第2問 「倫理」から、会話文を読み、資料などを参照しながら日本思想を考える問題。

問1 江戸時代の儒学者に関する基礎的・基本的な知識を問う。誤った選択肢は比較的平易なので消去法で正解④は選べるが、新井白石『西洋紀聞』に通じていないと④を正解とは見抜けない。

問2 日本の古代思想について基礎的・基本的な知識を問う。

問3 日蓮の思想について基礎的・基本的な知識を問う。

問4 資料を熟読し文脈から正しい表現を選ぶ読解力の問い。国語力でもある。時間はかかるが難しくはない。

第3問 「倫理」から、会話文を読み、資料などを参照しながら西洋思想を考える問題。

問1 ベーコンのイドラについて基礎的・基本的な知識を問う。平易。

問2 キルケゴールの思想について基礎的・基本的な知識を問う。平易。

問3 ホルクハイマーとアドルノの思想、すなわちフランクフルト学派について基礎的・基本的な知識を問う。

問4 プラグマティズムについての資料読解と哲学対話の意義について基礎的・基本的な知識を問う。時間はかかるが丁寧に読めば正解は容易。

第4問 「倫理」から、会話文を読み、資料などを参照しながら青年期と現代倫理を考える問題。

問1 欲求不満と防衛機制について基礎的・基本的な知識を問う。平易。

問2 終末期医療についての生命倫理の問い。平易ながら重要な問い。

問3 二重結果原則についての資料読解に基づく問い。資料からアの内容を読み取るのは難しいのではないかな。

問4 二重結果原則と積極的差別是正措置や安楽死・尊厳死の関連を問う読解力の問い。ここまで丁寧に解いてくれば正答は容易と考えられる。

第5問 「政治・経済」から、大学の教員による市民講座のプログラムから経済全般を問う。出題者から高校生へのメッセージとして経済分野に関するリード文を示すべきだろう。

問1 国富に関する統計数値と生徒のノートから国富に関する基礎的・基本的な知識を確認する。

問2 循環型社会を図示した資料を完成させるべく具体的事例を挿入することで思考力・判断力を問う。

問3 国債残高増加の記事を読み、基礎的・基本的な知識を踏まえ文中の空所を補うのに最も適切な表現を選ぶ。

問4 FTA と EPA についての基礎的・基本的な知識を問う。問われた知識を確認するのにリード文に用いられた会話文を使わなければならないということではないだろう。

問5 日本と諸外国との経済協力について基礎的・基本的な知識を問う。文脈をたどりつつ基本的な用語や表現を選択する平易な問い。

問6 グローバル化に関して外国人との共生社会の在り方について基礎的・基本的な知識を問う。もっとも問われた知識は、情報についてのデジタル・デバインドとバリアフリー、労働についての労働基準法と労災保険である。

第6問 「政治・経済」から、大学の模擬授業を受けたという形で平和について考えるとともに付随して政治全般を扱う問題。大学入学共通テストとなってからリード文に大学からの明確なメッセージのある文章を示すことがなくなったのは高校生の学びにとっては痛手である。模擬授業の概要が示されただけでは、そこから学問としての「平和」を読み取るのは難しい。

問1 日本国憲法に示された天皇に関する基礎的・基本的な知識を問う。義務教育段階の知識

であり、仮に正答率が低いとなれば義務教育段階の憲法学習の内容が問われるだろう。

問2 PKO についての説明文と表から基礎的・基本的な知識を確認する問い。平易ながら説明文の読解と表の読み取りとを連動させ 2022 年という教科書には記載はない時事的事象ながら考えて解くことで正答が得られる工夫された問い。

問3 国会の制度について基礎的・基本的な知識を問う。問われた知識は、法律案の審議の流れ、内閣法制局、憲法審査会、衆議院の優越、国政調査権である。

問4 差別解消について基礎的・基本的な知識を問う。誤文を選ばせるのはいかなものかとも考えるが、出題内容を考えれば誤文を選ぶ設定にしなければならなかった理由もわかる。しかし、そこまでして出題のリスクを冒しても出題すべき内容だったのか疑問が残る。問われた知識は、部落差別解消法、ヘイトスピーチ対策法、アイヌ民族支援法、障害者雇用促進法である。

問5 人権保障に関する条約について基礎的・基本的な知識を問う。問われた条約は、国際人権規約、女性の権利条約、人種差別撤廃条約である。

問6 南北問題、南南問題について、基礎的・基本的な知識を問う。問われた知識は、モノカルチャー経済、UNCTAD、新興工業経済地域と後発発展途上国である。

第7問 「政治・経済」から、産業構造の変化と日本の経済・社会の課題と探究の概要図から知的財産権、国際収支、新会社法、イノベーションなどに関する問題。

問1 知的財産権の保護が問われた。知的財産権の保護は重要な課題である。**ア**は非競合性の定義を知識として問い、**イ**は著作権保護の意義を文脈から考える問いになっている。

アの非競合性については用語を知らなくても選択肢を見れば正答は得られる。とはいえ、非競合性の定義を問うのは高等学校での学習の範囲を超えるのではないか。

問2 生産拠点を海外に移した場合の国際収支統計の変化について問う。生徒がまとめたメモを追う形で論理をたどりつつ変化を捉える作業が求められた。

問3 ベンチャー企業について基礎的・基本的な知識を問う。実際に問われた知識は、新会社法である。

問4 イノベーション支援策をめぐり特区やリスキリングなどの基礎的・基本的な用語の知識が問われた。

3 総評・まとめ

学習指導要領に準拠しつつ、高等学校で習得する知識・技能と習得した知識・技能を用いて思考力・判断力を働かせて問題を解いていくことをとおして、これから大学で学ぼうとする受験者が身に付けるべきものの見方や考え方を示している。この科目において学習する内容から偏りなく出題され、難易度も標準的である。

4 今後の共通テストへの要望

大学入学共通テストの後期中等教育に及ぼす影響はきわめて大きい。出題内容や出題形式などは1月に実施された試験が4月以降の授業を左右することも少なくない。大学入学共通テストは来年度から新教育課程に則した出題になる。従前にも増して、一層良問の出題に心を砕いてほしい。すべての問いを解き終わって得られる教科・科目の目標やねらいの達成、大問のリードと小問の有機的な関係、共通テストでの学びが大学や大学院での学びや研究、真理の探究につながる研究者からのメッセージなど、単なる入学試験としての性格以上の教育に関する重い役割を担っていることを十分に理解し問題作成に当たっていただきたい。大学入学共通テスト受験という経験をとおして有為な若人を育成する使命を負うのは、高等教育にある出題者の先生方も後期中等教育の現場にある教員も同じである。